

また、年度初めは担任とのやり取りが中心の児童が多かったが、学部合同での学習を積み重ねる中で、自分から友達の名前を呼んだり、友達の働き掛けを受け入れたりするなど、友達と関わろうとする意欲が高まってきた。今後も集団での活動や色々な人とのやり取りを通して、人と関わることの楽しさに気づき、自分から伝えようとする態度を育てていきたい。本単元における児童の実態については以下のとおりである。

A 児	・友達や教師と関わるのが好きで、言葉をまねたり身振りをしたりして自分の思いを伝えようとするが増えてきた。初めての場所や初めての活動、慣れない状況が苦手。
B 児	・人と関わるのが好きで自分から友達や教師に働き掛けることができる。慣れない人との関わりや人前での活動に対しては抵抗感がある。
C 児	・人と関わるのが好きで、言葉で自分の思いを伝えることができるようになってきている。周りのペースに合わせた行動が苦手。お店屋さんに対する意欲が高い。
D 児	・表情や動きで、自分の思いを伝えている。友達や教師の言葉や行動を気にすることが増え、人との関わりを楽しんでいる。制作活動が苦手。
E 児	・慣れている人には自分から関わるができる。一方で、慣れない人との関わりや人前での活動、初めての活動に対しては動きが止まってしまうことが多い。
F 児	・初めての活動や人前での活動に対する抵抗感が強い。身近な友達や教師への関心が少しずつ高まり、自分から名前を呼んで誘い掛けられるようになってきた。

○授業づくりと授業改善

単元計画や単元目標、単元を通してそれぞれの児童に頑張ってもらいたいこと、育成を目指す資質・能力を検討した。児童の実態をもとに、生活科の目標を中心に単元の目標を考え、集団での活動や色々な人とのやり取りを通して、人と関わることの楽しさに気づき、自分から伝えようとする態度を育てていきたいということを確認した。祭りの準備や運営を通して、児童が素材に触れて表現する楽しさを味わうことや、言葉や身振りでコミュニケーション、簡単なルールのあるゲームなどを体験し、他の教科等での学びも生かしたいと考えている。また、前時の反省点を受けて、模擬授業を行いながら授業改善を行っている。

○エピソード記録について

パドレッド（オンライン上で画像・文章・動画などを共有し、共同作業ができるコラボレーションツール）を活用して毎時間の児童の学習の様子を記録している。これにより授業中に気付かなかった児童の様子を知ったり、自分の見取りと他の指導者の見取りを照らし合わせたりすることができている。それを踏まえて、次時の授業づくりに生かすことができるように取り組んでいる。同時に複数人が入力できるよさがある反面、見返ししやすい記録にするために今後検討が必要である。



3 提示授業について

夏休み前には2組の生活単元学習で祭りを題材とした「にこにこきらきらまつり」の学習を行った。児童にとって身近である1組の友達や保護者を祭りに招待した経験から、2組の児童は「喜んでもらえてうれしかった」「またやりたい」という達成感と今後の学習への意欲が見られた。また、1組の児童からは「楽しかった」「やってみたい」という良い反応が得られ、9月からは合同での生活単元学習で同様に祭りを題材にすることにした。

本単元では、教師が用意した出店を児童が楽しむことから始めた。楽しんだ4つの出店を協力して作り上げ、お客さんとお店屋さんの役割をどちらも経験していく。そして、まずは関わったことのある他学部の生徒や教師を招待、最後には祖父母を招待することを目指し、少しずつ関わりを広げていく。その中で、人との関わりを楽しみ、自分から他者に伝えようとする意欲を育み、生活単元学習以外の学校生活にもつなげていきたい。また、児童が自分で考え、表現できるように、答えをすぐに教えるのではなく、発問をしたり選択肢を提示したりすることを心掛けて指導している。



掲示用の単元計画